



## 参考資料

# VMware Integrated OpenStack 信頼性の高い VMware インフラへのオープン API によるアクセスを実現

## 概要

2014 年 8 月 26 日、VMware は、新ソリューション「VMware Integrated OpenStack」を発表しました。これにより IT 部門は、信頼性の高い VMware ベースのインフラにアクセスするためのオープンかつクラウド ベースの API を、迅速かつ高いコスト効率で開発者に提供できます。VMware Integrated OpenStack ディストリビューションは、コンピューティング、ネットワーク、ストレージ、管理機能など市場で実績のある VMware の Software-Defined Data Center テクノロジーを活用しており、本番環境レベルの OpenStack の導入において、設備投資コスト (CAPEX)、運用コスト (OPEX)、総所有コスト (TCO) を削減する信頼性の高い企業向けインフラを提供します。

## 発表内容

- Software-Defined Data Center はプライベート/ハイブリッド/パブリック クラウド環境の構築と運用に理想的なアーキテクチャです。
- OpenStack を用いて Software-Defined Data Center を構築するための業界最高クラスのインフラを提供します。
- VMware の仮想化ソリューションに最適化された OpenStack クラウドの導入を可能にします。ハイパーバイザーはもちろんのこと、コンピューティング、ネットワーク、ストレージ、管理機能など、VMware のすべての Software-Defined Data Center 製品群を活用して、企業向けの信頼性の高い OpenStack クラウドの構築を実現します。
- オープンソースの OpenStack コードをはじめとして、VMware Integrated OpenStack に必要な全製品をパッケージングし、テストを行い、サポートを提供します。
- VMware Integrated OpenStack 向けに、事前審査が必要なベータ プログラムを実施しています。
- VMware Integrated OpenStack は、2015 年上半期に提供開始予定です。
- VMware は、Canonical、HP、Mirantis、Piston、Red Hat、SUSE と協力し、各ベンダーから提供される OpenStack ソリューションと VMware インフラとの確実な連携を実現します。

## 開発者のための新世代ソリューション

次世代 Web や第 3 のプラットフォーム（クラウド、モバイル、ソーシャル、ビッグデータ）向けアプリケーションの開発者は、API ベースかつプログラマブルなアプローチで、クラウド インフラにアクセスしています。こうした環境の中、OpenStack フレームワークは、アプリケーション開発チームがプロ

グラマブルなアプローチでインフラにアクセスするためのツールとして、有力な手段となりつつあります。

しかし、組織、特に信頼性が求められる企業ユーザにとって、**OpenStack** 導入は多くの時間とリソースを必要とするものであり、そして基盤となるインフラが必ずしもセキュリティや耐障害性、パフォーマンスの面での要件を満たしていないのが実状でした。また **OpenStack** クラウドでは、導入後も運用のために継続的なコンサルティング サポートが必要であり、また **OpenStack** に関する知識・技術を有するエンジニアの確保や、集中的なスタッフの教育／トレーニングが必要になるなどの課題もあります。さらに、最先端の **OpenStack** 開発環境に不可欠な管理機能を備えていないという課題もあります。

### **OpenStack クラウドのための最適基盤である VMware インフラ**

VMware は、VMware vSphere®をはじめとするテクノロジーに加え、VMware NSX™や VMware Virtual SAN™といった技術革新など、**OpenStack** クラウドの構築に最適な業界最高クラスの実績ある製品群を提供しています。さらに、**OpenStack** 専任のソフトウェア開発チームを結成し、ソリューションの導入を支援しています。

VMware Integrated OpenStack により、VMware は IT 部門および開発者のニーズに応えます。開発者向けには、セルフサービス API による信頼性の高い VMware インフラへのアクセスを提供し、基盤インフラの仕様を気にすることなく、より迅速かつ高いコスト効率でアプリケーション開発を行うことが可能です。

また IT 部門向けには、VMware Integrated OpenStack の導入によって、確実な運用コストの削減と、より迅速なビジネスの立ち上げが可能になります。わずか数分で **OpenStack** クラウドを立ち上げ、運用を開始できるほか、VMware Integrated OpenStack は VMware の運用・管理ツールと完全に統合されているため、利用中の VMware ソリューションに関する専門性を生かした **OpenStack** クラウドの管理やトラブルシューティングが可能です。さらに VMware を基盤とする **OpenStack** クラウドにより、パブリック クラウドに移行していたワークロードを、開発者にとってより使いやすく、安全性と信頼性に優れたプライベート クラウド環境へ移行し直すことが可能です。

### **オープン コミュニティへの参画**

VMware は、直近のさまざまな活動に加え、以前にも Nicira Networks などを通じて、**OpenStack** コミュニティ創成期の 2011 年からその発展に大きく貢献してきました。そして、さまざまな新製品のリリースのたびに、**OpenStack** のコードベース全体の改善や、コンピューティング、ネットワーク、ストレージ、管理機能など VMware ソリューションの各機能との統合改善を進めてきました。現在では、30 人以上の **OpenStack** 専任の開発者を擁しています。また **OpenStack** の最新リリース「Icehouse」のコアプロジェクト (Nova、Neutron、Cinder、Glance、Keystone、Swift、Horizon など) において、VMware は 4 番目のコントリビュータです。

VMware、VMware Virtual SAN、NSX、VMware vSphere は、VMware, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。他のすべての名称ならびに商標は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

#### 将来予想に関する記述

本プレスリリースには、VMware Integrated OpenStack などの新しい VMware の製品やサービス、新製品で予定されている機能、IT 部門、開発者、顧客への潜在的メリット、予定される提供開始時期など、将来予想に関する記述（forward-looking statement）が含まれており、1995 年米国私募証券訴訟改革法（Private Securities Litigation Reform Act of 1995）の「セーフハーバ」条項（the safe harbor provisions）に準拠しています。実際の結果は、特定のリスク要因により、将来予想に関する記述で予想された結果と大きく異なる場合があります。リスク要因には、(i) 世界的な経済状況や市場状況の悪化、(ii) IT の消費の落ち込みまたは遅延、(iii) 価格競争、業界再編、新規競合会社のクラウドコンピューティングやネットワークの市場への参入、当社の競合会社による新製品の投入およびマーケティング施策などの競合状況、(iv) 顧客の新製品の開発、および新しい製品やクラウドコンピューティング、ネットワーク仮想化、software-defined data center など新たなコンピューティング戦略へ移行する能力、(v) 顧客の新興技術に対する許容性（賛同の有無）、(vi) 仮想化ソフトウェア、クラウドコンピューティング、ネットワークの飛躍的な技術革新および市場変化、(vii) 製品開発スケジュールの変更、(viii) VMware の専有技術を保護する能力、(ix) VMware が優秀な従業員を採用、維持できるかどうか、(x) 世界的な経済状況などの不確定要素が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

これらの将来予想に関する記述は、現時点での予想に基づくものであり、状況、重要性、価値、および効果の不確定要素と変化、ならびに 最新の報告書 Form 10-Q、Form 10-K、Form 8-K を含む米証券取引委員会に提出した文書に詳しく記載されているその他のリスクによる影響を受けることがあり、実際の結果が予想と異なる可能性があります。VMware は、このプレスリリース後にこれらの将来予想に関する記述を更新する義務を一切負いません。